

令和4年度第1回坂戸市文化財保護審議会（書面審議）の結果について

1 日 時

- (1) 令和4年9月1日（木）から 令和4年9月16日（金）まで
- (2) 令和4年9月28日（水）から 令和4年10月11日（火）まで

※上記（1）の審議において資料に不足があったため、資料を修正し再度審議を行った。

2 参加者（決議書提出者）

文化財保護審議会委員10名

3 審議事項

- (1) 令和5年度坂戸市指定文化財補助金等について

【内容】

指定文化財にかかる令和5年度における坂戸市補助金に関し、予算要求分の補助予定額を提示し、意見を求めた。

【結果】

	選択肢	
	適切であると認めます。	適切とは認められません。
9/1～ 9/16	10人	0人
9/28～ 10/11	10人	0人

【意見】

・コロナ禍にあって、思うように活動ができないばかりでなく、後継者の確保・育成にも苦勞している団体が多いと聞く。文化事業は一度途切れると活動再開は大変なので、補助金の交付だけでなく後継者問題も含めて支援する体制が必要であり、麦からみこし保存会への対応も適切だと考える。

・予算が増額されれば活動も充実するものと思う。

・妥当な要求額と思われる。

・後継者養成事業の補助金配分について、最低限の補助金ということで配分されているのであろうが、活動が活発な文化財と新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動が休止状態になっている文化財があるようである。補助額に軽重をつけても良いと考える。

・土屋神社神木スギについては、今後も関係者の意向に沿い支援していくことを期待する。

・土屋神社神木スギの樹勢維持事業を実施しているものの、厳しい状況に見える。今後の見通しについて説明が欲しい。

(2) 市内古墳の保存に係る今後の方針について

【内容】

塚原古墳群の一部寄付申出に対する経緯及び市内における古墳の現状等について報告するとともに、市内古墳の保存に係る今後の方針について意見を求めた。

【意見】

- ・塚原古墳群は確認された墳丘の大半が現存するだけでも貴重であり、積極的に保存・管理を検討してほしい。整備後の活用を考えると、史跡指定することが有効ではないか。
- ・塚原古墳群の歴史的価値、保存の構想、今後の活用等の検討を進めるとともに、保存に対する市民の機運を高める取組の推進が重要と考える。
- ・地権者と坂戸市、毛呂山町とで話し合いながら古墳公園のような形で共存して残して行くことが賢明と思う。
- ・塚原古墳群全体の保存については、寄付や買収までしなくても、毛呂山町の川角古墳群、大類古墳群のように市、地主やボランティアなどの協力により、下草を定期的に除去し市民が見学できるようにできないか検討してほしい。
- ・市内の古墳をこれ以上消滅させないためにも、保存・管理方針の策定を急ぐべきである。
- ・塚原古墳群については坂戸市史や新編埼玉県史にも記述があり、毛呂山町の大類古墳群と併せて苦林古墳群と称されており、その資料的価値は明らかである。受入及び整備、整備後の対応等については、学術的な見地を重視し、識者の指導のもと、後世に悔いを残さない適切な実施が望まれるところである。
- ・文化財を個人で管理していくには無理な部分があり、公共団体が補助及び主体となって管理すべきである。用地買収も含めて計画されたい。

4 報告事項

(1) 前回審議会の意見等記入書にかかる回答について

【内容】

前回（令和3年度第2回）審議会の書面審議の際にいただいた意見に対し、事務局としての回答を報告した。

【意見】

- ア 旧勝呂小学校校舎にかかる登録有形文化財（建造物）への登録手続きについて
- ・登録手続きは是非進めて頂きたいと思うが、内部を現状のまま資料館として活用していくのは如何かと思う。登録後の活用について考えるには、現在の資料館と新しい資料館の関係が具体的に明確化しないと議論が進まない。
 - ・資料館は別の場所に新規に開設し、旧勝呂小学校校舎は教育関係資料、民具専門資料館として特徴のある活用のされかたが良いかと思う。
 - ・「学校が展示場」であるという点にミスマッチ故の魅力を感じる。学校らしさ

は残しておくことが肝要と思う。

(2) 令和3年度補正予算事業 地域文化財総合活用推進事業（地域の伝統行事等のための伝承事業）について

【内容】

令和3年度に文化庁は、新型コロナウイルス感染症の影響により行事等の開催が困難となり、存続が危機的状況になっている地域の伝統行事や民俗芸能等に対し、伝承のための支援事業を補正予算で実施している。坂戸市においては、2団体の補助が決定したため、報告した。

【意見】

- ・新型コロナウイルス感染症によって地域の文化的伝承も大きな影響を被っている。今後も伝え継続していくためには、行政と地域との更に密なる接触が肝要と思われる。
- ・無形民俗文化財は後継者不足が問題であり、関係者も映像を子供たちや関心のある人に見てもらいたいと話されていた。そういう機会を作れるよう継続的に支援していくことが望ましい。

(3) 令和4年度における夏の祭礼行事の実施状況について

【内容】

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年・3年と多くの団体で祭礼行事等が中止となった。そこで、令和4年度における実施状況について報告した。

【意見】

- ・できるだけ映像に記録しておくことが求められている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、祭礼行事等が中止になっていることはやむを得ない。
- ・練習や祭礼行事の様子の中で、後継者や新規会員の練習用として、手元や指使いなどもあわせて記録しておくこと、万が一途絶えてしまう恐れがある時に役立つのではないかと。

(4) 第25回埋蔵文化財出土品展について

【内容】

令和4年8月に坂戸市文化会館ふれあいで開催した、第25回埋蔵文化財出土品展の結果について報告した。

【意見】

- ・多くの来場者を獲得していて、成果を上げている。教科書対応の資料展示は子ども考古学者を育てる良い企画だと思う。

【内容】

自由記入による意見を求めた。

【御意見】

- ・「埼玉の文化財」の中で、近世文書の整理を具体的にどのように実施しているのか、今後の事業の見通しも含めて教えていただきたい。
- ・コロナが収束に向かったら、先ず第一に塚原古墳群の現地視察、またそれに続いて他の文化財、遺跡等実地視察を増やして欲しい。